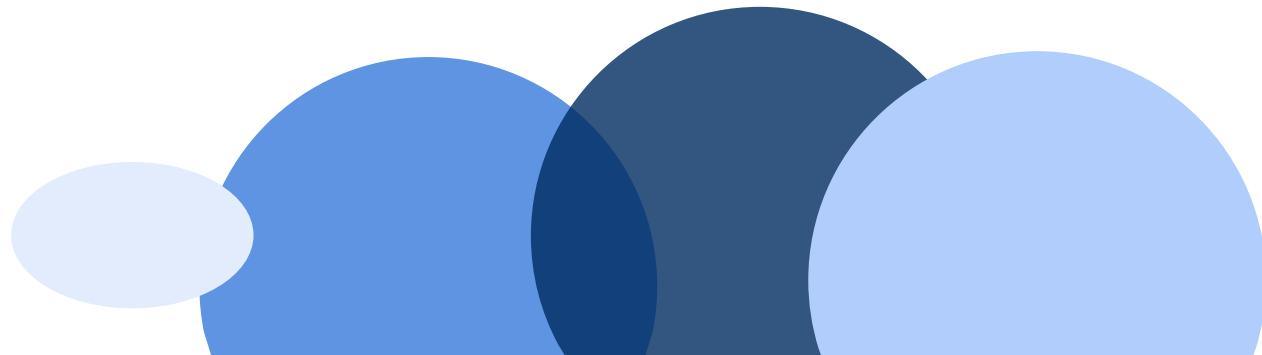
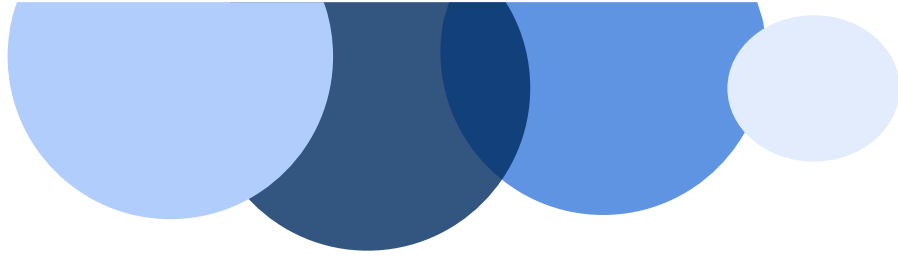


3. 政策策定と評価

政策の実施・評価・見直し





本講義の狙い

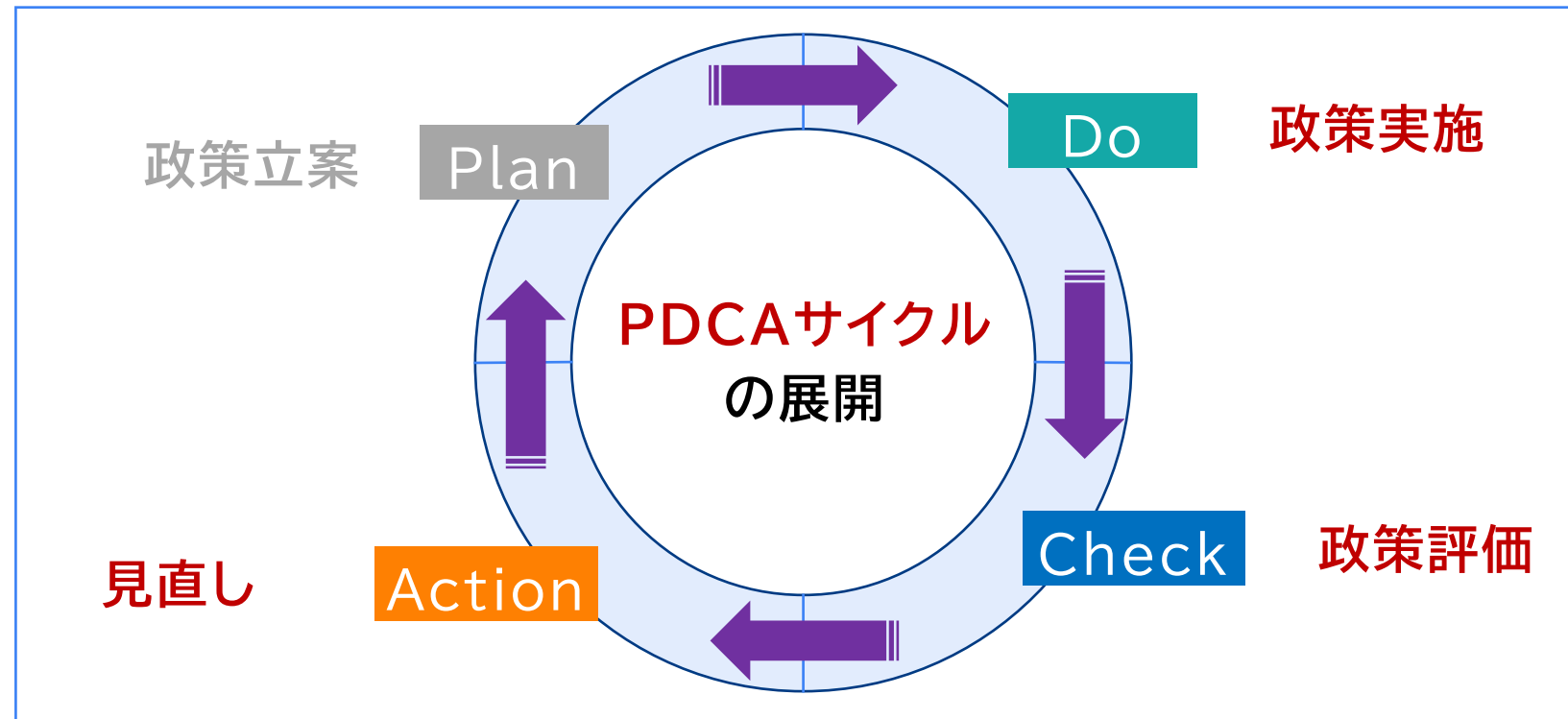
- 政策の実施・評価・見直しの方法と留意点について説明できる

本講義の内容

- 政策の実施・評価・見直し —————4
- 政策実施の流れ・小さなPDCA —————5
- 関係者・関係機関との連携 —————9
- 政策評価 —————11
- 保健活動における評価の対象・観点—————13
- 政策評価・見直しの例 —————15
- 本講義のまとめ —————19

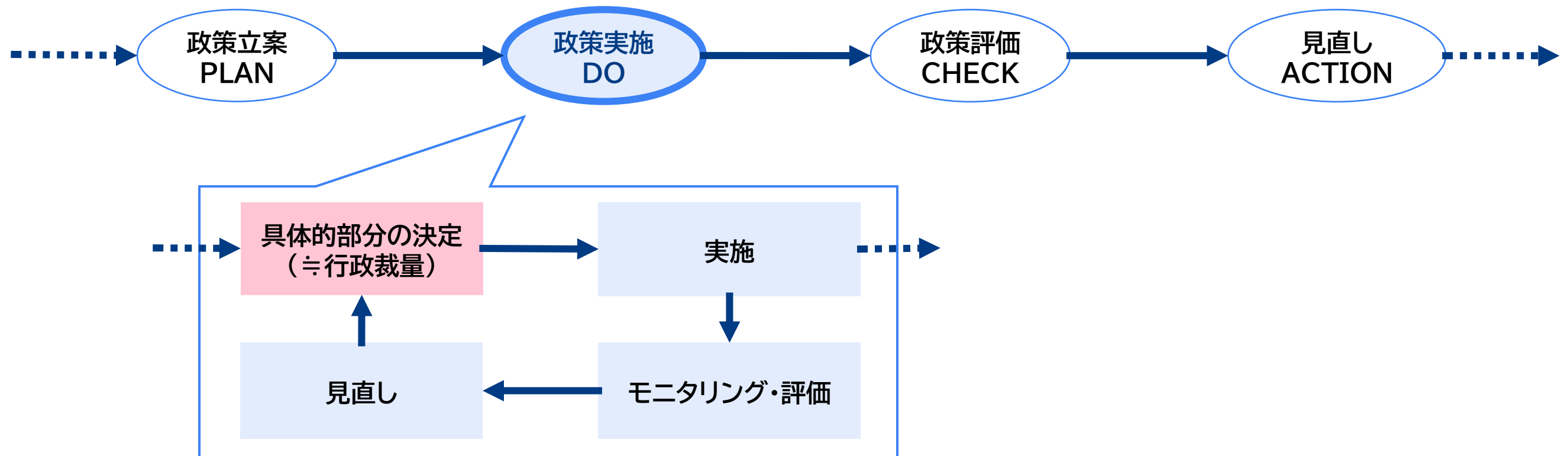
政策の実施・評価・見直し

- 本講義では、政策形成サイクルのうち「政策実施(DO)」、「政策評価(CHECK)」、「見直し(ACTION)」について学習
- 政策形成・評価をPDCAサイクルで展開する場合の流れ(イメージ) (*)



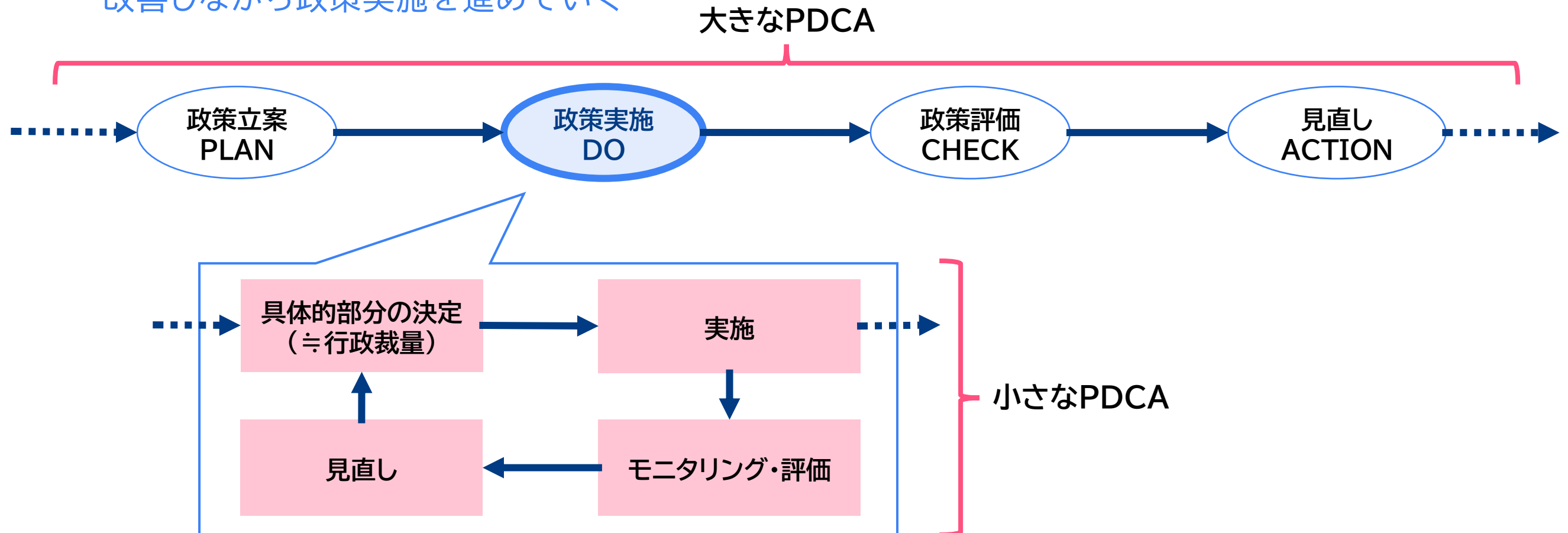
政策実施の流れ

- 政策立案の段階では「多義的・概括的・不確定な概念」が残る場合がある
- 政策実施は、これらの具体化を進めるところから始まり、「行政裁量」とも呼ばれる部分

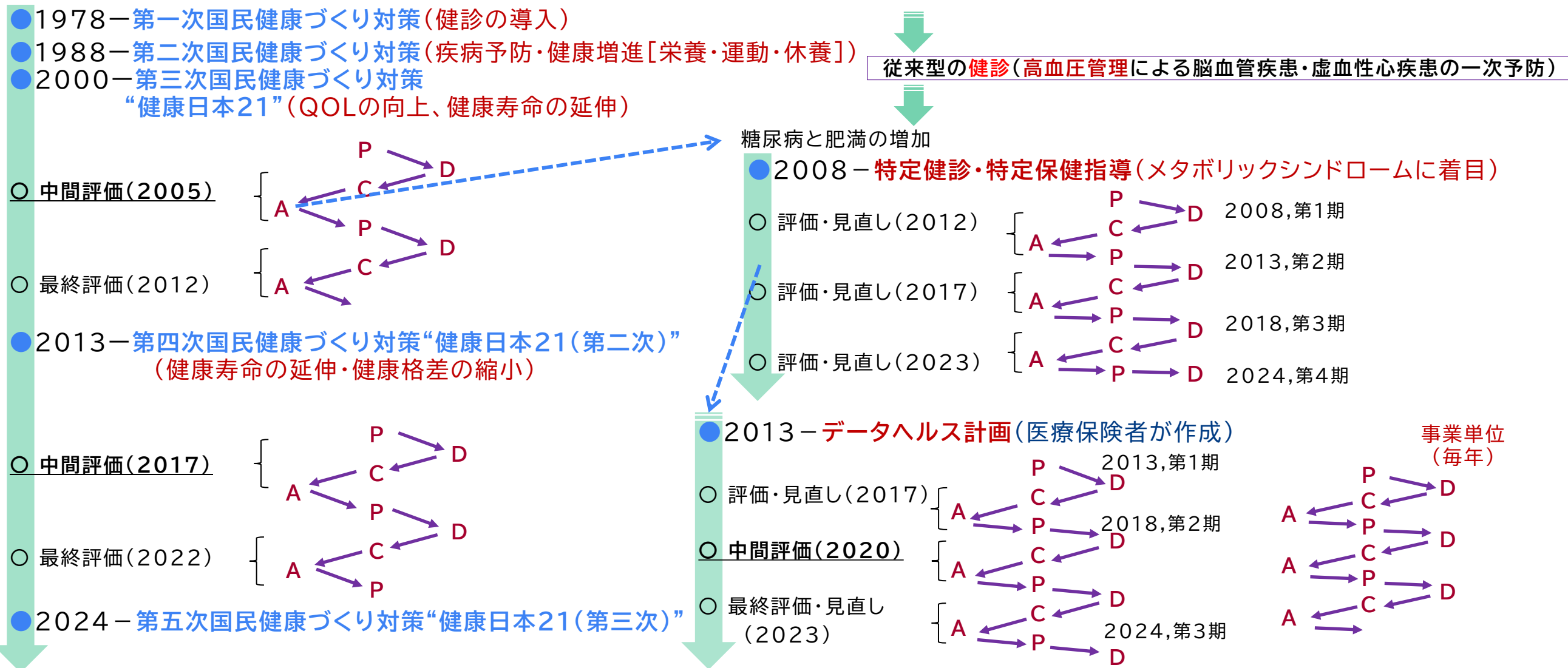


政策実施の流れ

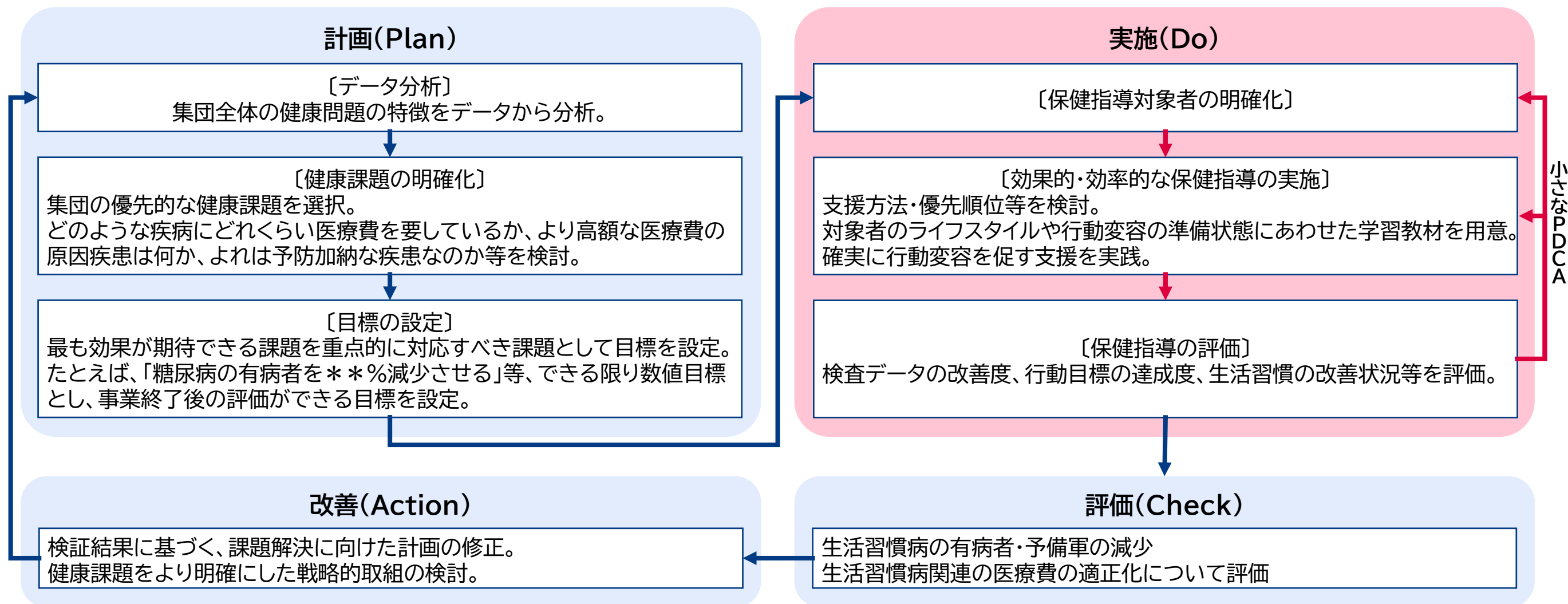
- 政策形成サイクル全体のPDCAだけでなく、政策実施段階の中で小さなPDCAを回すことも重要
- 政策実施段階の中でモニタリング・評価・見直しを行うことで、より効果的・効率的な方法・内容に改善しながら政策実施を進めていく



日本の健康増進施策におけるPDCAサイクルの例



保健事業(健診・保健指導)におけるPDCAサイクルの例



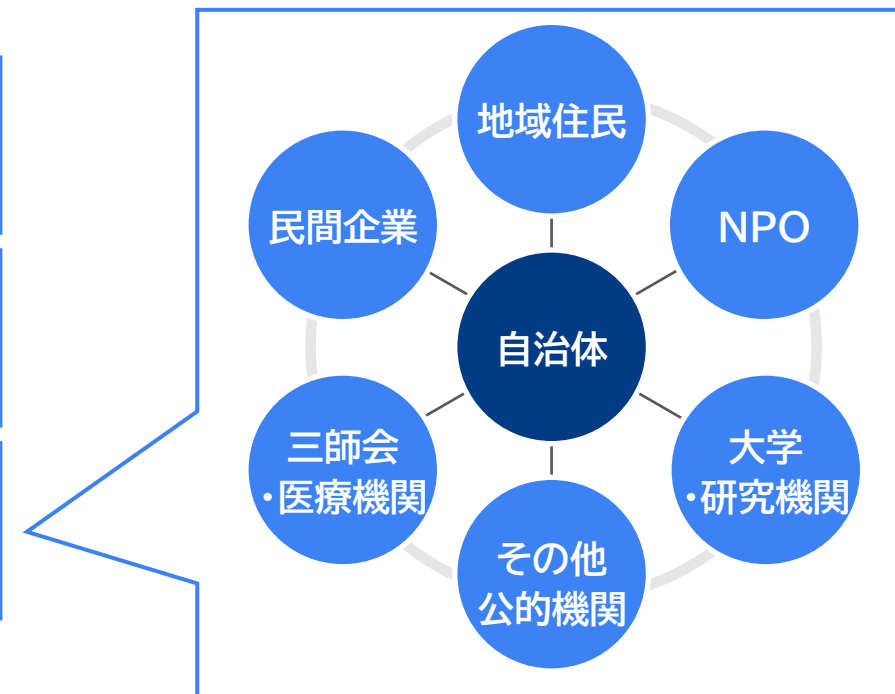
関係者・関係機関との連携・分担

- 政策実施にあたっては、様々な関係者・関係機関と連携して進めて行くことが重要
- 「同じチーム内」、「他部署」、「外部機関」等、様々な関係者との連携を考慮
- 外部との連携を進めるには、お互いの目的が一致していること、相互に利益がある取り組みであること、等の前提が重要

【連携する3つの階層】

所属部署	- 同じチーム内における連携・分担
他部署	- 他部署との連携・分担 - (例) 経済系の部署と連携した健康経営の取組 - (例) 観光系の部署と連携したウォーキングイベント開催
外部機関	- 外部機関との連携・分担 - (例) 大学等と連携したデータ分析事業 - (例) 民間企業と連携した健康啓発イベント開催

【連携する外部機関の例】

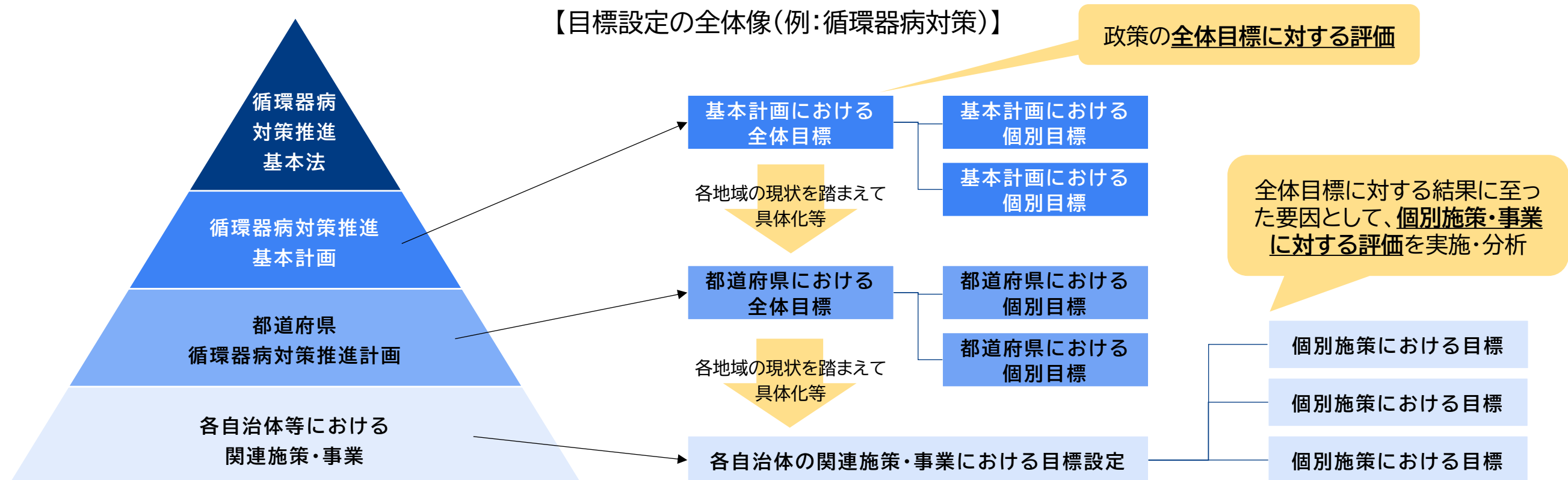


関係者・関係機関との連携における留意点

- 関係者・関係機関との連携においては、以下が重要
 - ✓ スケジュールの策定・共有
 - ✓ 関係者との明確な役割分担(+責任者の決定)
 - ✓ 意思決定時には関係者と合意形成
 - ✓ 合意形成を円滑に進めるための事前根回し
 - ✓ 進捗状況の定期的な共有
 - ✓ 遅延やリスクが判明した場合は、スケジュールの引き直しや内容・規模感の軌道修正を実施(≡小さなPDCA)

政策評価の全体像(例:循環器病対策)

- 政策評価は、評価対象となる政策の構造や、まとまりの大きさに応じて、それぞれ評価する
- 政策の「全体目標」に対する評価を行うとともに、その結果に至った要因として、個別施策・事業に対する評価を実施・分析する

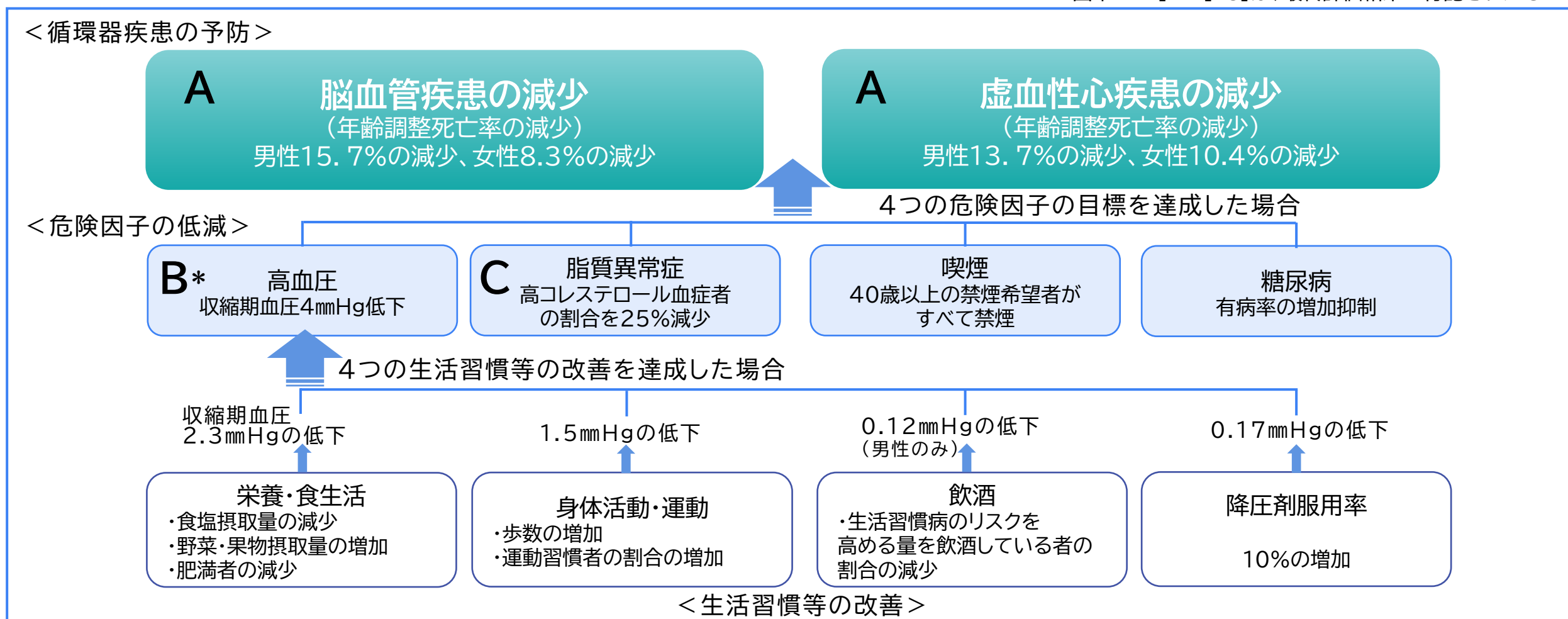


政策評価の整理例（例：健康日本21（第二次）循環器疾患）

厚生労働省「健康日本21（第二次）最終評価報告書」（令和4年10月）（＊）

図表Ⅱ-2-(2)-1:循環器疾患の目標設定の考え方及び目標項目の評価

※図中の「A」「B*」「C」は、最終評価結果が付記されたもの



保健活動における評価の対象・観点

評価の対象

個人	個人レベルでどう改善したか
集団	集団レベルでどう改善したか
個別事業	事業の効果はあったのか
全体計画	最終目標に近づいたのか

評価の観点

ストラクチャー (構造)	誰が、どういう体制で
プロセス (過程)	どのように
アウトプット (事業実施量)	どれだけやって
アウトカム (結果)	その結果どうなったか

保健活動における評価の目的

保健活動の**見直し改善**を行う

保健活動の**効果を確認**する

評価の観点

{	ストラクチャー (構造)	誰が、どういう体制で
	プロセス (過程)	どのように
	アウトプット (事業実施量)	どれだけやって
{	アウトカム (結果)	その結果どうなったか

個別事業における評価指標の例

例) 適正飲酒に関する普及啓発事業: 市が定期的に行っている飲食店向け会議や資料送付時に、適正飲酒や飲酒時に望ましい食事についてのチラシを配布し、店内掲示を依頼する。

具体的な評価指標の例

評価区分	評価の観点	具体的な評価指標(例)
ストラクチャー(構造)	誰が、どういう体制で	✓ チラシ作成の予算・人員、飲食店向け会議体や連絡体制の存在
プロセス(過程)	どのように	✓ チラシの作成(内容、デザイン等)、送付のタイミング・依頼の仕方
アウトプット(事業実施量)	どれだけやって	✓ どれだけ多くの飲食店に配布(送付)・依頼したか
アウトカム(結果)	その結果どうなったか	✓ 見えやすい場所に店内掲示してくれた飲食店数

ポイント

この事業としてのアウトカムは店内掲示まで(可能ならばチラシを認知した客数)
その延長にある市全体の飲酒量や飲酒関連疾患の減少は、全体計画(健康増進計画の飲酒領域等)のアウトカム
事業は毎年評価・見直しを行う

個別事業における評価(CHECK)・見直し(ACTION)の例

例) 適正飲酒に関する普及啓発事業: 市が定期的に行っている飲食店向け会議や資料送付時に、適正飲酒や飲酒時に望ましい食事についてのチラシを配布し、店内掲示を依頼する。

具体的な評価(CHECK)の例

評価区分	具体的な評価指標(例)
アウトプット (事業実施量)	① チラシを500枚配布した
アウトカム (結果)	② 掲示した店は10店舗だった(アウトカム評価は「×」)
プロセス (過程)	③ 原因をヒアリングしたところ、以下の回答が多かった ✓ デザインが店の雰囲気と合わなかった ✓ 送付のタイミングが飲食店の繁忙期と重なった
ストラクチャー (構造)	④ ヒアリング結果に基づき構造面を振り返った結果、以下が挙げられた ✓ チラシ作成の予算が少なくデザインに関する調整が実施できなかった ✓ 会議の場において、飲食店側のニーズを把握する機会の設定が不十分だった



具体的な見直し(ACTION)の例

評価区分	具体的な評価指標(例)
アウトプット (事業実施量)	① 配布数には問題が無かったため、次回も500枚配布予定
アウトカム (結果)	② (次回の結果を測定し、見直しの効果を判定)
プロセス (過程)	③ 以下の見直しを実施 ✓ どんな雰囲気のお店でも掲示しやすいようデザインを複数用意 ✓ 送付のタイミングを飲食店の繁忙期からずらす
ストラクチャー (構造)	④ 以下の見直しを実施 ✓ デザイン調整のための予算獲得 ✓ 会議の場で、飲食店のニーズを聞き出すための議題を追加した

全体計画における評価指標の例

例) 健康増進計画(飲酒領域): 飲酒関連疾患の罹患率が高いので、市民全体の適正飲酒を図る。

具体的な評価指標の例

評価区分	評価の観点	具体的な評価指標(例)
ストラクチャー(構造)	誰が、どういう体制で	✓ 計画作成のための十分な人員・予算確保、会議体の設置、関係機関との連携体制
プロセス(過程)	どのように	✓ 各種データや日頃の活動に基づいて現状分析、課題抽出、個別事業選択
アウトプット(事業実施量)	どれだけやって	✓ 計画した個別事業をどれだけ実施したか
アウトカム(結果)	その結果どうなったか	✓ 市民全体の飲酒知識・態度・行動の変化、飲酒関連疾患の減少

ポイント

全体計画のアウトカムは、いくつかある個別事業の集大成。
効果が出るには時間がかかるので、計画期間全体を通して評価する。

全体計画における評価(CHECK)・見直し(ACTION)の例

例) 健康増進計画(飲酒領域): 飲酒関連疾患の罹患率が高いので、市民全体の適正飲酒を図る。

具体的な評価(CHECK)の例

評価区分	具体的な評価指標(例)
アウトプット (事業実施量)	① 以下の個別施策を実施した ✓ 親子(母子)健康手帳発行時の情報提供 ✓ 中学校・高校における情報提供・啓発 ✓ 特定健康診査・特定保健指導 等
アウトカム (結果)	② 各指標については以下の結果であった ✓ 妊娠中の飲酒は減少(○) ✓ 中学生・高校生の飲酒者の割合は減少(○) ✓ 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者は増加(×)
プロセス (過程)	③ 詳細分析したところ、以下が分かった ✓ 40代以上は特定健康診査・特定保健指導により飲酒習慣の改善が見られた ✓ 20-30代へのアプローチが不足
ストラクチャー (構造)	④ 構造面での振返りを実施 ✓ 地域・職域連携推進協議会において、「20-30代の飲酒習慣」の議論を行う場が無かった



具体的な見直し(ACTION)の例

評価区分	具体的な評価指標(例)
アウトプット (事業実施量)	① 20-30代に向けたアプローチを増加
アウトカム (結果)	② (次回の結果を測定し、見直しの効果を判定)
プロセス (過程)	③ 以下の見直しを実施 ✓ 特定健康診査・特定保健指導による40代以上へのアプローチは継続 ✓ 地域・職域連携を通じた20-30代へのアプローチを強化
ストラクチャー (構造)	④ 以下の見直しを実施 ✓ 地域・職域連携推進協議会で「20-30代における飲酒習慣」を議論するワーキングを発足

本講義のまとめ

- 政策を実施するだけでなく、評価を行い、方針を確認しながら施策を実施していくことが必要。
評価した結果を、施策策定に反映させ、サイクルを次々と回していくことが重要(≡小さなPDCA)
- 政策実施にあたっては、様々な関係者・関係機関と連携して進めて行くことが重要
- 様々な関係者・関係機関と連携する上では、スケジュールの策定、明確な役割分担、合意形成、事前根回し等が重要であり、かつ遅延やリスク発生時には柔軟な軌道修正が求められる
- 政策の「全体目標」に対する評価を行うとともに、その結果に至った要因として、個別施策・事業に対する評価を実施・分析する
- 保健活動における評価の観点として、ストラクチャー、プロセス、アウトプット、アウトカム、がある
- アウトカムで効果を確認し、十分な結果が得られなかった場合は、ストラクチャーに問題があったのか、プロセスに問題があったのか、アウトプットに問題があったのか、それぞれ評価・分析する
- 政策評価を実施して終わりではなく、次の政策の改善・見直しに繋げていくことが重要